

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2024年6月25日

岐阜県知事 殿

提出者

住 所 各務原市上戸町7-7

氏 名 カルビー(株) 西日本事業本部

各務原工場 工場長 石丸 早苗

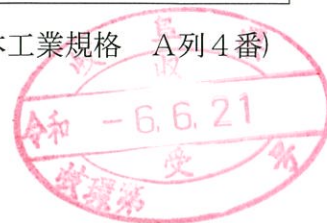
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 058-371-1311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

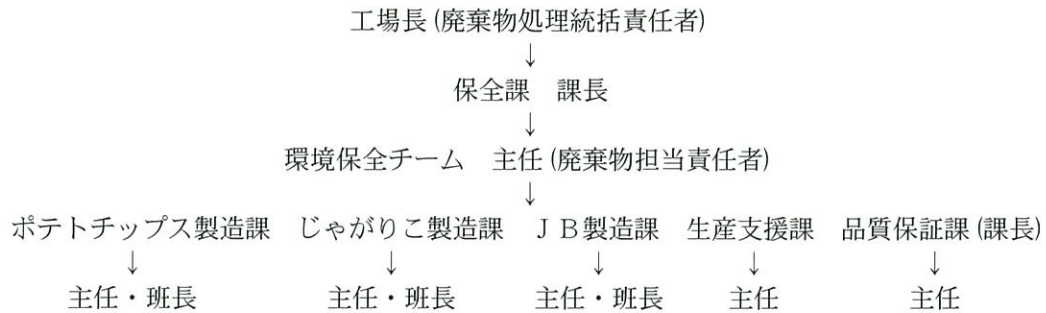
事業場の名称	カルビー株式会社 西日本事業本部 各務原工場
事業場の所在地	各務原市上戸町7-7
計画期間	2024年 4月 1日 ~ 2025年 3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	食品(スナック菓子)製造業
②事業の規模	2,253,900万円(2023年4月~2024年3月)
③従業員数	321名 6月12日時点
④産業廃棄物の一連の処理の工程	動植物性残さ:一部脱水・破碎⇒委託処理(中間処理)⇒堆肥・飼料 汚泥:排水処理汚泥⇒脱水・乾燥⇒委託処理(中間処理)⇒堆肥 廃プラスチック類:圧縮⇒委託処理(中間処理)⇒RPF等補助燃料 木くず:切断⇒委託処理(中間処理)⇒補助燃料、堆肥 金属くず:委託処理(中間処理)⇒原料 ガラス・コンクリート・陶磁器くず:委託処理(中間処理)⇒原料

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度 (2023年度) 実績】

産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥
排 出 量	4, 180. 4 t	1, 862. 5 t

(これまでに実施した取組)
 原単位を削減し、総排出量を抑制する。
 動植物性残さ：ロス削減、廃棄製品削減 (重大不適合、在庫の削減)
 汚泥：脱水汚泥乾燥機による排出量の削減

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
排 出 量	4, 000. 0 t	1, 400. 0 t

(今後実施する予定の取組)
 動植物性残さ：昨年度と同様。
 汚泥：脱水汚泥乾燥機の継続運用により排出量の削減。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
 動植物性残さ：馬鈴薯残渣、生芋ロス、味材ロス、廃棄製品
 汚泥：排水汚泥、調整槽堆積汚泥

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
 昨年度と同様

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

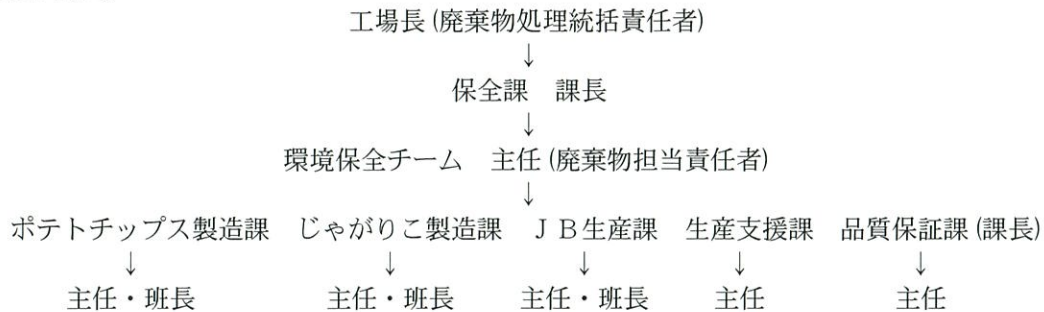
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
	全 処 理 委 託 量	4, 180. 4 t	1, 862. 5 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	68. 1 t	0 t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	4, 114. 3 t	1, 862. 5 t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	2. 5 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	63. 6 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
	生産量が増加する中、原単位を削減し、総排出量を抑制する。 動植物性残さ：ロス削減、廃棄製品削減(重大不適合、在庫の削減) 汚泥:脱水機運転時間の延長(24h)と運転調整及び凝集剤の最適注入による更なる脱水ケーキ水分低減。		

1-1

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性算さ	汚泥
	全 処 理 委 託 量	4, 000. 0 t	1, 400. 0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	50 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	3, 950. 0 t	1, 400. 0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	50 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 動植物性残さ：昨年度と同様。 汚泥：脱水汚泥乾燥機の継続運用により排出量の削減		
(事務処理欄)			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度(2023年度)実績】

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
排出量	86.4 t	1.7 t

(これまでに実施した取組)

工程から排出される包装材ロスの削減・廃カップの有価物化

未使用フィルム資材の削減

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
排出量	85.0 t	2.0 t

(今後実施する予定の取組)

昨年度と同様

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

廃プラスチック類：廃フィルム、廃ビニール、硬質プラ、廃カップ

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

昨年度と同様

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	全 処 理 委 託 量	86.4 t	1.7 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	21.9 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	72.0 t	1.7 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	14.4 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
	工程から排出される包装材ロスの削減 未使用フィルム資材の削減		

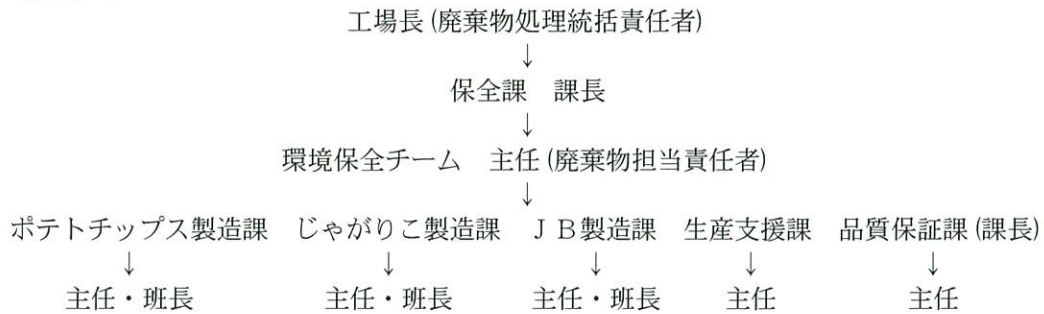


(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	全 処 理 委 託 量	85.0 t	2.0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	20.0 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	70.0 t	2.0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	15.0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 昨年度と同様		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 (2023年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	排 出 量	0.05 t	0.19 t
	(これまでに実施した取組) 破碎・圧縮		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	排 出 量	1.0 t	1.0 t
	(今後実施する予定の取組) 昨年度と同様		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 金属くず・汚泥：電池 ガラス・コンクリート・陶磁器くず：蛍光灯、ガラスウール、薬品容器、実験器具
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 昨年度と同様

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2023年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	全 処 理 委 託 量	0.05 t	0.19 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	0.05 t	0 t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	0.05 t	0.19 t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	0.0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 昨年同様		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず・汚泥	ガラス・コンクリート・陶磁器くず
	全 処 理 委 託 量	1.0 t	1.0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	1.0 t	1.0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1.0 t	1.0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	.0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 昨年度と同様		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。